

増築披露

元支那料理

喜來軒

近藤喜多治
平町紺屋町(電五五四)
女給三名至急募集

横森博士の推奨せる
まよひし、その
養命酒

其偉効眞に神の如く
定價……一圓五十錢、二圓
平町五丁目角 **山野邊藥局**

十八日より
移轉披露の爲特賣致します

●友仙モス尺十錢より……●友仙モス着尺四圓三十錢
●新大島壹圓五拾錢より……●ニコノ各種
尚ほ友仙一切壹圓均一物百切限り但し御一人一切
外に格安品豊富に取揃へました
是非、御來店を願上ます

平町四丁目
(吉) 喜好屋吳服店

開業披露

中山治療院

東京盲學校卒業 中山平吉
平町研町十一公園入口

鍼灸——殊に
電氣應用マツサージ
神經痛、ルイマチス、痲痺、ニキビ治療
等に特効あり

第二病室 増設

高久病院

院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平町田町電話五三一三番



日刊 發行編輯 八川時文治 本社下町番地(電話六三〇番)
印刷所 常盤毎日印刷所

定部金貳錢 一ヶ月卅錢 三ヶ月九拾錢 半年一圓七拾錢 一年三圓二拾錢
廣告費 第一版五錢 第二版四錢 第三版三錢 第四版二錢 第五版一錢
印刷費 一紙五錢 一頁十錢 一頁二十錢 一頁三十錢 一頁四十錢 一頁五十錢
休刊日 日曜大祭 祝日 祭日 盆日 正月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 毎月一日 毎月二日 毎月三日 毎月四日 毎月五日 毎月六日 毎月七日 毎月八日 毎月九日 毎月十日 毎月十一日 毎月十二日 毎月十三日 毎月十四日 毎月十五日 毎月十六日 毎月十七日 毎月十八日 毎月十九日 毎月二十日 毎月二十一日 毎月二十二日 毎月二十三日 毎月二十四日 毎月二十五日 毎月二十六日 毎月二十七日 毎月二十八日 毎月二十九日 毎月三十日 毎月三十一日 毎月三十二日 毎月三十三日 毎月三十四日 毎月三十五日 毎月三十六日 毎月三十七日 毎月三十八日 毎月三十九日 毎月四十日 毎月四十一日 毎月四十二日 毎月四十三日 毎月四十四日 毎月四十五日 毎月四十六日 毎月四十七日 毎月四十八日 毎月四十九日 毎月五十日 毎月五十一日 毎月五十二日 毎月五十三日 毎月五十四日 毎月五十五日 毎月五十六日 毎月五十七日 毎月五十八日 毎月五十九日 毎月六十日 毎月六十一日 毎月六十二日 毎月六十三日 毎月六十四日 毎月六十五日 毎月六十六日 毎月六十七日 毎月六十八日 毎月六十九日 毎月七十日 毎月七十一日 毎月七十二日 毎月七十三日 毎月七十四日 毎月七十五日 毎月七十六日 毎月七十七日 毎月七十八日 毎月七十九日 毎月八十日 毎月八十一日 毎月八十二日 毎月八十三日 毎月八十四日 毎月八十五日 毎月八十六日 毎月八十七日 毎月八十八日 毎月八十九日 毎月九十日 毎月九十一日 毎月九十二日 毎月九十三日 毎月九十四日 毎月九十五日 毎月九十六日 毎月九十七日 毎月九十八日 毎月九十九日 毎月百日

刊夕日七十二月十

十月十日診療開始

院長 醫學博士 菊地泰助
副院長 醫學博士 松野松治
部長 醫學士 野田宏
顧問 醫學博士 公水琢磨
衛生試驗所(其化學的検査)
主任 醫學博士 菊地泰助
技師 和田宇市
藥劑師 吉本孝平
本院主 賀澤忠治
産婦人科 耳鼻咽喉科は追て開始
診療時間 午前九時より午後二時迄
急患は此限りならず

外科

外科一般
耳鼻咽喉科
女性病科
×光線科

赤心堂病院

田町 電話四七五番

美味評判

イウキ食堂

平町紺屋町(縣社通り)
オの部電話四六〇番



常盤毎日新聞

林野と火災(八)

縣會議員 井上茂作

我々東洋人の及ばざる處は即ち此點であるから發明家を獎勵し優遇する方法も考へなければならぬと思ふ。防火思想に付ては國民道德の發達向上を要求するのであつて公德心の訓練を涵養せねばならぬ公德心に付て一つの美談を又紹介すれば佛國の某地と記憶します。道路の兩側に多數の果樹を植へてある其果實は隨て市場に售らる其代金は道路修繕費に充當せられるのであるが林檎なり桃なりが道路に落ちてあつても誰一人之れを拾ふて食するものなく萬一自動車など踏み潰

牛乳の入つた白玉
た子さんの好きな菓子

森永ベルベツト

十二ヶ入 金拾錢

ヤトモツマ
番四一二話電

今般都合ニ依り本月十五日限り平驛前當分院ヲ廢院仕リ從前通り本院ニ於テ診療ニ從事仕リ候間此段謹告仕リ候
十月廿二日 平町紺屋町

新妻眼科醫院

奧様にゼヒ申上たい事があります
大和田酒店といふ勉強な店が出来ました
御用の節は是非(大和田酒店)へ御用命下さいませ

品が好く値が安く配達早く萬事に氣の利くこと請合致します

洋酒 清酒 福島縣平町南町二〇番地
味噌醬油 各種
罐詰各種

大和田酒店

電話五五七番
振替東京七三〇八〇番

本會々長佐原久義殿永々病氣の處藥石其無効廿六日午後十一時遂に死去仕り候間此の段去候間此の段關係各位に御通知申上候

追而葬儀は來る廿九日午後二時自宅出棺光西寺に於て相替申可候
大正拾五年拾月廿七日

石城醸友會

父久義儀永々病氣の處藥石其無効廿六日午後十一時遂に死去仕り候間此の段辱知諸君に謹告仕候
追て葬送の儀は廿九日午後二時佛式を以つて相替み申可候
大正十五年十月廿七日

男 佐原久治
友代 永山篤平
親戚一同

される處に落ちてあれば其果物の危険でない位置へ直して通り過ぐと云ふことであります。此敬虔なる思想の公德心に唯々敬服するのである若し我々であれば人の目に觸れざるを好機としつゝみ喰つて醜態を演ずるかも知れぬ彼等は實に良心習性を養ふたものである。蓋し教育の目的は善良なる智と徳とを採り入れて日本國民としての人格を築き上げるものであらう。然るに現代教育の欠陥なりとして教育家にのみ責めを負はしむるは慘酷であるけれども頗る思想の動搖を爲して居る又大學の教授や學生までが左傾した心得違ひのもの頻發することは寒心の至りである。是は要するに唯物主義

觀論者の中毒に罹りたる根であつて精神教育者の亡びたる結果に外ならぬ此論者の本家本元に於ても今や思想の變轉機に傾きつゝある状態より推測すれば永く持續するものとは考へられず靜穩に回復するものと信する以上は洵に淡片のたまりまして捉へ處のなき話であるけれども愛林と思想の關係山林と河川と道路若くは林野火災の防止と公德心の發達向、等各種の方面に涉つて御話し致した考へであります言葉の足らざる處あれば語り下手でも聽き上手と謂ふこともありますから此邊は適當に御解釋を願ひたいと存じます。長き時間を御静聴に預りましたことを感謝します(終り)

海岸埋立地で 崇厳な神式祭事

町では祝賀協賛會を 餘興其他各種の趣好

本日の小名濱漁港竣工式は午前十時半から同町海岸埋立地に於て既報各方面關係の來賓六百餘名を迎へ

- 一、神式祭事二、開式
- 三、式辭四、工事報告
- 五、祝辭

の順序にて行はれそれより同所に於て午餐會を催し退散の午後三時半頃から一部來賓百五十餘名の特別宴會を同町旗亭新米、壽滿屋錦盛館、吉田屋の四ヶ所に於て開催した縣では費用として二千四百圓を計上支出した外町の祝賀協賛會でも町内の醸金或は地方有志の寄附によつて之亦約三千圓を支出し同町空前の盛典に一層の賑ひを見すべく目もあやなる全町の裝飾を初めとして煙火、花相撲、曲藝、藝妓の手踊等各種の餘興に加へ港内の大小漁船其他悉々々々満艦飾を施し港内容易に見られぬ美觀を添へ當日の小名濱は海も陸も旗のなびきと大衆の歡呼とに眞に生氣躍動の場面を現出した

祝賀飛空

霞ヶ浦から 小名濱上空へ

霞ヶ浦航空隊では航空思想普及のため本日の小名濱築港竣工式につき午前十時出發で藤吉大尉指揮の下に一

樂師の悴へ

歸宅方説諭願

西白河郡古關村大字内松字作田文治長男關根午吉(一)は來る一月仙台工兵大隊に入營する筈の處過般郷里を出で平町白銀町小田興行部に樂師となつてゐるとのこと再三歸宅を迫つたが歸宅せぬので廿六日平署に實父から説諭方願出でた

石城酒商 値上相談中

實現は難色あり

石城地方の酒造家は不景氣で資金の回収がつかない所を賣行不振といふ頗る悲況に在る所に税制改正の結果十石七圓といふ増税が祟つていよ／＼金融の検査を告げ本月納期の第三期酒造税を如何にして納入しやうかと全く頭痛に病んでゐるが灘地方では去る九月から十石十圓を値上げの不況切抜け策としたのに鑑み石城地方の酒造家も酒の値上げを寄々協議中とあるが現在協定した値段の一升一圓二十錢といふ小賣相場が殆ど實行されてゐない今日また灘

急速改修を要する

藤原川河口工事

沿岸耕地を潮水が襲ひ 水田四十町歩が無收穫

石城郡藤原川は從來泉村小名濱町界に流入してゐたが右河口が去る大正四年八月の中洪水のため河口に土砂の堆積しそれが爲流心の異動を生じ川口が泉村下川字劍の家人附近に移動したがい來放水具合が極めて悪く洪水の都度沿岸耕地二百町歩に浸水し且河口を埋没した爲め潮水が附近水田約四十町歩に浸入し收穫皆無の状態に陥、鮑及び海藻が殆ど採取されぬ様になつたので泉村長中村立躬氏外關係各町村長連署の上近く出縣河口開鑿の陳情をなす筈である

サンマ罐詰

本邦初めての

本縣水産試験場ではいよいよ秋刀魚の盛漁期に入り各濱の漁船は一航海に十萬尾も漁獲し水揚相場も一尾一錢五厘内外に低落したので秋刀魚の加工製造を奨励味付け罐詰並に燻製品約一萬尾程試製試賣する以外本年は農商務省から罐詰機械の購入費全部を補助されアドリアン・シーマー機を据ゑ付けた條件もあり本邦初めての試みであるトマトソースで味付けした秋刀魚の罐詰

櫻村家の不幸

平警署署長櫻村慶氏嚴父殉藏氏は過般來病氣のため茨城縣多賀郡日高村小本津の實家に於て靜養中の處二十四日長逝昨二十六日佛葬を執行した

平町人事

死亡

△鎌田町六番時湯本町字八仙三八酒井兼太郎(四〇) △鎌田町三七鈴木ミツ(七五)



秋の化粧法

秋は四季のうち一番お化粧のしよい時であります。肌には適度の脂肪が分泌しますし、空気はよく澄んで、

平 商工見學通信

第六通信

七時半市内見物に出發最初明智光秀が信長を討つたので名高い本能寺を見た、現在修繕中であるそれから舊御所見物に行つた、終つて平安神社を見物した桓武天皇が祭つた神社にして京都に於て最も尊敬すべき神様である屋根や廊には金が塗つてあるのである前には悪源太義平と平重盛が一騎打の勝負をしてじり／＼廻つた右近橋左近の櫻があつた、然しこれは昔のまゝの木でなく位置は同じであるといふ、黒谷に行つた此處は熊谷次郎直實が壇の浦の戦にて平就盛を殺したので此の世の無

情を感じて法然上人をたつて來た黒髪を切つて僧となつたところである宿を發してから三時間ばかり歩きとほしたので吾等一同は非常につかれて了つたやつと浄土宗總本山の智恩院に來た此處には左甚五郎が作つた所の鶯張の廊下があつた人が其の上を通るとキューキューとなるのである七八十人の僧がお經を讀んでゐた。其處で晝食を喫した智恩院に來る前にインクラインを見た、次に八坂神社を参拜したこの神社は官幣大社であつて素齋鳴命を祭つたのであつて京都三大祭の一つである、次に五重になつて居る塔を見た、之は八坂塔と云ふ、清水坂に上つて清水寺を参拜に行つた、豫想外に立派な所であつ

た、歸りには墓所の間を通つて來た、此のあたり一帯の地を鳥邊山と云ふそれから大佛殿を通つて方廣寺の吊鐘を見物した國家安康の字が三寸位の大ききで書いてあつた、三つ打つと五錢とられるのである、次に豊國神社を参拜した三十三間堂は六十六間あつたそれから清水焼の製造場を見學した東本願寺は非常に壯大な寺であるその建築したる柱は周圍七尺もあるケヤキの木である信心したる女の髪が澤山あつまつて五寸位の大ききのわをなつて一間位の高さに重なつてあつた(五つ)勅使寺は金銀でちりばめてあつて引戸の上に二つの一尺位の大ききに菊の御紋があつてあつた、此の間は先の鐵道大臣大木遠吉

氏の奥様の兄なる人が二十七萬圓を寄附して作つたそうである、それから西本願寺に行つた此處も頗る大きな寺である、中を見物した其處には秀吉の遺物が多くあつて最も目についたのは室である多くの室には昔の畫家狩野氏筆が多くあつた其の中にあつたる壁畫へ糸カヤ)は世界で最も名高い書であつてパリー等の美術家ははる／＼それを研究に來ると云ひます、又此處の唐紙に畫いてある松の木は幅十一間縦二間あるのであるそれにも一つ一つの畫とて三名畫と云ふ、東本願寺及び西本願寺の兩院には多くの鳩が屋根に巢を作つて居るのである西本願寺前に一本の大なる銀杏の木がある之を水吹の銀杏と言ひ本

募集

文藝其他投稿を募集します

願寺では頗る大事にしてゐる、此の水吹の銀杏の由来を語れば、昔京都に大火のあつた時に市内の多くは焼失したるに之の銀杏の木が水を吹きかけ

た／＼に無事に焼失を免れたと云ふ事である、午後五時半一同夕食を喫して散歩に出かけた七時五十分汽車に投じて東京に向ふ

愛妻の搜索願 石城郡内郷村大字宮顯隆妻根本ハナ(三)は去る十八年前結婚したが去る八月二十二日家出したまゝ、歸宅せぬので平署に捜査方願出でた